
目次

【1】 --- 教員コラム 18 弾 第 5 回「新しいチーズを求めて」
分子医科学教室 ゲノム医科学部門/中野正和

【2】 --- 和雑誌架利用できます。(一部除く)

【3】 --- 「医中誌.jp」 トライアルは 10/10 (木) まで

【4】 --- 安藤忠雄氏特別講演会「人生百年、元気に生きる」レポ
<広小路キャンパス活性化プロジェクト>

[Book Review] ……編集後記にかえて

【1】 --- 教員コラム 18 弾 第 5 回「新しいチーズを求めて」

分子医科学教室 ゲノム医科学部門/中野正和

本コラムの読者の皆様は米国の医師であり心理学者でもある Johnson Spencer 氏の著作「チーズはどこへ消えた？」(門田美鈴訳, 原題「Who Moved My Cheese?」)をご存知でしょうか? 2019 年時点において累計 2800 万部以上発行されているベストセラーで、2000 年に日本で訳書が発売された際には書店から瞬く間に姿を消すという現象が起きました。

(以下ネタバレ有り)

物語に登場する二匹のネズミと二人の小人は毎朝早起きをして巨大な迷路(人生)の中で一日中チーズ(成功や幸せ)を探し回っています。そしてある時、彼らは大量のチーズがある区画を発見しました。それから毎日彼らはチーズに囲まれた夢のような生活を送ります。ところが、永遠に存在すると思われたチーズがある日忽然と消えてなくなってしまったのです。ただ、注意深いネズミ達は決して動揺することはありませんでした。以前からチーズが徐々に減っていることに気がついており、日々の迷路の探索を怠っていなかったからです。「チーズはなくなってしまったのだから他の場所を探そう」と足早にその区画から去って行きました。一方、小人達は早起きをやめてチーズを貪る毎日を過ごしていました。知性

の高いはずの小人達は現実を受け止められず「いつかまたチーズが現れるはずだ」とその場所にしがみつきます。しばらくして小人の一人が「このままでは何も変わらない」と意を決して迷路へと飛び出します。そして、とうとう最初の区画をはるかに超える大量のチーズを蓄えた新しい区画に辿り着くのでした。そこにはネズミ達の姿もありました。小人は変化を恐れて現実から目を背けていた自分に気がつきます。そして、もう一人の小人が恐怖に打ち勝って迷路へと一歩踏み出すことを願いながら物語は終わります。

当時は、私がアカデミアにおける研究者を志さずため、安定した民間企業の職を捨てて母校の大学院博士後期課程に復学した頃でした。それまではこのような流行りの自己啓発書を手に取ることはなかったのですが、この本だけは書店で斜め読みした後そのまますぐに購入したことを覚えています。新しいチーズを求めて恵まれた環境を飛び出す決断をした自分が出会うべくして出会った本とさえ思えた程でした。

その後 2004 年に本学にゲノム医科学部門が設置され、ご縁があって設置当初からスタッフとして合流させて頂きました。以来、米国での 2 年間の学外研究を挟んではおりますが、今日までの 20 年間所属を変えることなく同じ場所に定住しています。まっさらな新設講座のセットアップという美味なフレッシュチーズはとっくに完食してしまいましたが、幸い構築した研究基盤から産生される濃厚な熟成チーズを日々食すことができます。しかしながら、この部屋には果たして後どれくらいのチーズが残っているのか、存在するかどうか分からないチーズを求めて新たな一歩を踏み出すべきなのか、本コラムの執筆にあたり今更ながらに思いを巡らせています。

今年度から附属図書館運営協議会の委員を拝命し、広小路キャンパス活性化プロジェクトの一環として附属図書館が生まれ変わろうとしていることを知りました。新しいチーズを求める動きは身の回りに溢れています。本プロジェクトに携わることで、日々進化していく広小路キャンパスに刺激を頂きながら、新しいチーズを追求する意識を持ち続けることこそが私自身の行く末にとって非常に重要であると考えています。

※過去の教員コラムは、[こちら](#)です。

【2】 --- 和雑誌架利用できます。(一部除く)

.....

皆様にご協力いただき、地下の電動書架設置作業が進行中です。現在、和雑誌が新しい電動書架に並び、ご利用いただける状態になりました。ただし、一部の[タイトル](#)（主に購読中タイトル）はまだ箱詰めの状態です。お求めの雑誌が見当たらない場合は、カウンターへお声かけください。

今後も、工事や移動の関連で、図書館の一部と洋雑誌の使用を制限する予定があります。
騒音や振動など、皆様にご不便とご迷惑をおかけしますが、引き続きよろしくお祈いします。

== 今後の作業 ==

10/7(月)～10/9(水) 地階全面立入禁止

10/27(日) 洋雑誌(1990年～) 資料移転完了

都合により、予定を変更する場合がございます。

【3】 --- 「医中誌.jp」 トライアルは 10/10（木）まで

.....

トライアル中の和雑誌電子ジャーナルは 10/10(木)で終了します。

【医書.jp】 <https://webview.isho.jp/journal>

移動のため箱詰めになっている購読中のジャーナルも、この期間は電子で提供できますので、ご確認ください。

例) 『Brain and Nerve』『治療』『Expert Nurse』『がん看護』『外科』『皮膚科の臨床』『保健師ジャーナル』『訪問看護と介護』『週刊医学のあゆみ』『胃と腸』『JOHNS』『助産雑誌』『看護』『看護管理』『看護研究』『看護教育』『コミュニティケア』『胸部外科』『Medicina』『内科』『理学療法ジャーナル』『臨床栄養』『臨床外科』『臨床皮膚科』『臨床放射線』『産婦人科の実践』『整形外科』『精神医学』『精神看護』『診断と治療』『小児外科』『小児科診療』『小児内科』『手術』『周産期医学』『総合リハビリテーション』など。

リンクリゾルバ SFX にも登録済。医中誌 Web からスムーズに全文までリンクします。

【4】 --- 安藤忠雄氏特別講演会「人生百年、元気に生きる」レポ

< 広小路キャンパス活性化プロジェクト >

.....

2024/9/20(金)に実施した安藤忠雄氏特別講演会「人生百年、元気に生きる」は盛況のうち幕を下ろしました。募集後すぐに満席になり、追加募集も定員に達し、当日になっても問い合わせが相次ぐという盛況ぶりでした。皆様興味を持っていただき、ありがとうございました。

安藤先生は脾臓や十二指腸など、5臓を全摘手術したとおっしゃりながら、70分立ちっぱなしでお話をされました。

ご都合で残念ながら参加できなかった方へ、少しだけレポをお届けします。

=====

女性は年をとっても元気。年齢の8掛けくらいに見える。一方、男性は定年を過ぎると、1.3倍老ける。右脳を使って想像力を働かせ、刺激ある生活を送り、青りんご（安藤先生のトレードマーク？）のように一生青春でいたい。

人間は、少々不便な方が鍛えられる。これまで設計したのは、中庭を通らんとトイレに行かれへん家や、広さ4m四方、4階から1階まで上り下りしなければ生活できない家など。今の家庭は子供に気を遣いすぎや。子供が王様みたいになっている。蹴り飛ばすくらいで丁度ええ。

（大阪弁の勢いのある話しぶりに会場はどっとわいていました）

半分野外の教会を作った。冬は雪景色でキレイやでえ。

国道が通ってたところを広場にしたら。国土交通省でも何でも、諦めんと言うてみるのが肝心や。

（とおっしゃりつつ、85%を占める海外の仕事は）

英語は分からん。予算度外視で設計することもあった。それもこれも、300年後に残る建築を作る仕事やから。細かいことは聞いてられへん。

（直島に台風が襲来して転げたかぼちゃのオブジェの写真や、修復や購入の具体的な金額など、会場でしか聴けない内容もありました。）

=====

ユニークなお話と、飾らないお人柄に、安藤先生の人気の理由を感じました。

広小路プロジェクト特別講演会は、今後も続きます。次回は、作家・コラムニストの泉麻人氏をお招きし『[京のバス旅となつかしい風景](#)』についてお話いただきます。ただいま[参加者募集中](#)です。

[Book Review]

.....

泉麻人著『泉麻人自選 黄金の1980年代コラム』（三賢社 2021年）

来月、本学で講演して下さる泉麻人氏。テレビでご存知の世代もいるけれど、私にとって彼は「コラムの人」である。週刊文春、ポパイ、広告批評、鳩よ！などで、渡辺和博氏のイラストと共に量産されていた。

凝縮されたこのコラム集を改めて読むと、バブル時代へ向かって行く世相が見えてくる。「トレンドィ」「ブリッコ」「おたく」「ニューウェーブ」など、ミーハーで軽チャーな時代

だったなあ。

そんな中、「東京の恥部に行く」など、街歩きの視点が面白い。今度の講演は「京のバス旅」がテーマだとか。泉氏ならではの、細かいツッコミと自虐の混じった話が聴けそう。今から楽しみで仕方がない。(C.H.)(2階閲覧室 914.6||I)

KPUM Library Booklog : <https://booklog.jp/users/kpumlib>

この本のページ : <https://booklog.jp/item/1/4908655200>

.....

図書館メール News527号 2024.9.26 発行 (隔週木曜日発行)

編集・発行：京都府立医科大学附属図書館

library@koto.kpu-m.ac.jp

<https://www.kpu-m.ac.jp/k/library/>

.....

(図書館メール News のバックナンバーはこちらから↓)

<http://www.kpu-m.ac.jp/k/library/webservice/mailnews.html>